

## 朱太川のアユ遊漁券調査について



図 1 朱太川産アユ 写真は産卵期の雄 著者撮影

北海道はアユの分布の北限であり、中南部の 6 河川でアユの漁業権が設定されています。後志管内の黒松内町を流れる朱太川では既に 1930 年代にはアユの漁業が行われており、現在では朱太川漁業協同組合がアユ漁業を行っています。朱太川のアユ(図 1)は 2016 年には全国のアユの品評会「第 19 回清流めぐり利き鮎会」でグランプリを獲得するなど近年脚光を浴びています。

アユ漁業の場合、漁業者が直接漁獲して販売するのはごく少量で、漁協が遊漁券を販売することにより収入を得、それによって資源の維持管理を行っています。図 2 に道内河川でアユ遊漁券の売上げの多い 3 河川の年間遊漁券販売枚数を示しました。過去 10 年では朱太川が最も多く、他の河川を引き離しています。

さけます内水試では 20 年以上にわたる内水面漁業の実態調査の中でアユの年間遊漁券販売状況を継続して調査しており、2015 年からは加えて日別の販売状況も調査しています。図 3 に過去 10 年の朱太川年間遊漁券販売状況を示しました。遊漁券の販売状況を調査することで一体何が分かるのか? 一般的に遊漁券の販売数はある程度資源の大きさを反映していると考えられますので、資源モニタリングの一つの方法になると考えています。無論、実際にサンプルを採集して推定するなど、より厳密な方法がありますが、それには莫大な費用や労力がかかりますので当面は簡便な調査を継続していく予定です。

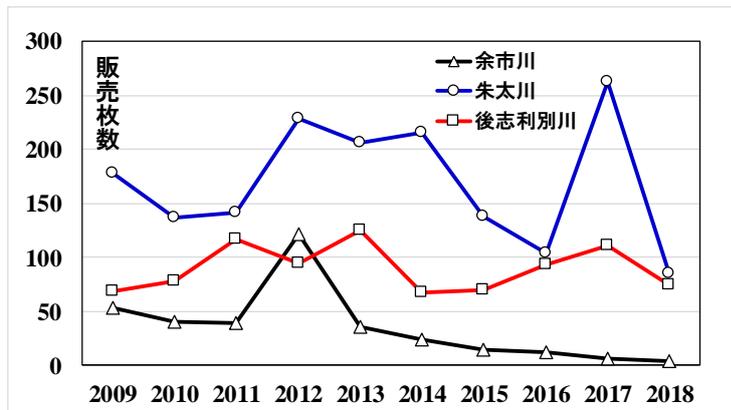


図 2 道内主要河川でのアユ遊漁券販売枚数

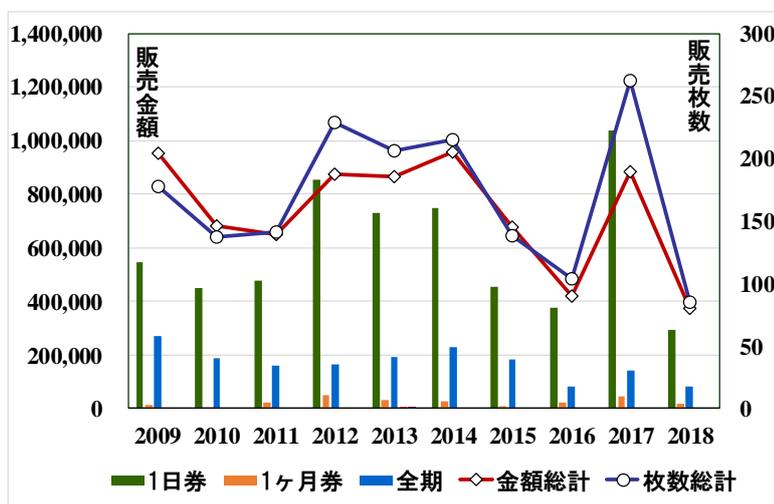


図 3 朱太川のアユ年間遊漁券販売状況  
縦棒は種類別販売枚数(右軸)、折れ線は販売枚数の総計(右軸)と販売金額の総計(左軸)を示す

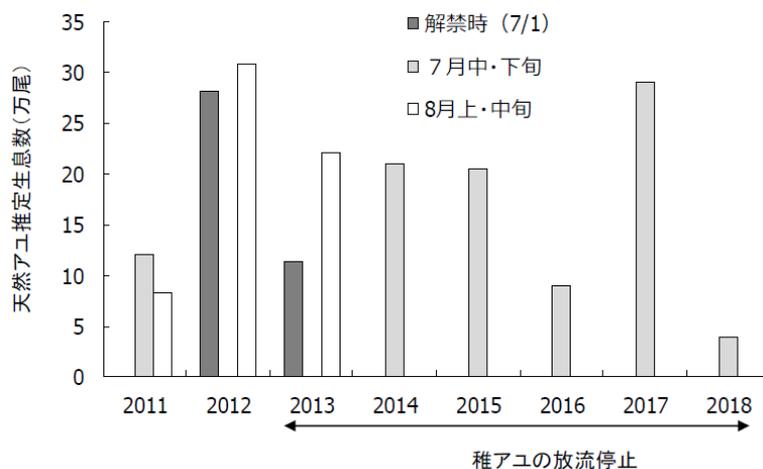


図 4 朱太川における天然アユの生息数の年変動 (高橋 2018)

幸いなことに黒松内町では2011年から高知県のたかはし河川生物調査事務所に委託して潜水観察による資源量推定を行っており(図4)、これを図3の結果と照合してみました。驚いたことに全体的な傾向は潜水観察による資源量推定と極めて類似しており、特に大きな変動があった2016~2018年にかけては良く一致しています。このことから遊漁券調査は簡便なモニタリング手法としてある程度有効であることが分かりました。

また2015年から開始した日別の販売状況について1日券のみを月別に集計したものを図5に示しました。図4に示したように2017年は著しく推定資源量が多かったのですが、この年だけ他の年と傾向が異なり8月の売り上げ枚数が多かったことが分かりました。遊漁券の売り上げ状況が資源を反映しているのであれば2017年は8月の資源が多かったこととなります。8月の資源の多いことと全体の資源が多いことは何か関連性があるのでしょうか? これについては現在何も答えを持ち合わせていません。しかしこのような基礎的な調査を継続していくことによって将来的に新たな知見が得られる可能性があります。河川漁業を安定的に継続していくためには、対象魚種の基礎的な知見を収集することが先決です。さけます・内水面水産試験場では今後も本調査を継続しアユ漁業の安定化につなげたいと考えています。

最後に本調査に快くご協力いただいた朱太川漁業協同組合ならびに黒松内町の皆様にお礼申し上げます、本稿の結びとしたいと思います。

#### 引用文献

高橋勇夫(2018) 平成30年度朱太川水系アユ生息状況調査・保全計画検証業務委託報告書  
黒松内町

(2019年4月26日 北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場  
内水面資源部 内藤一明)

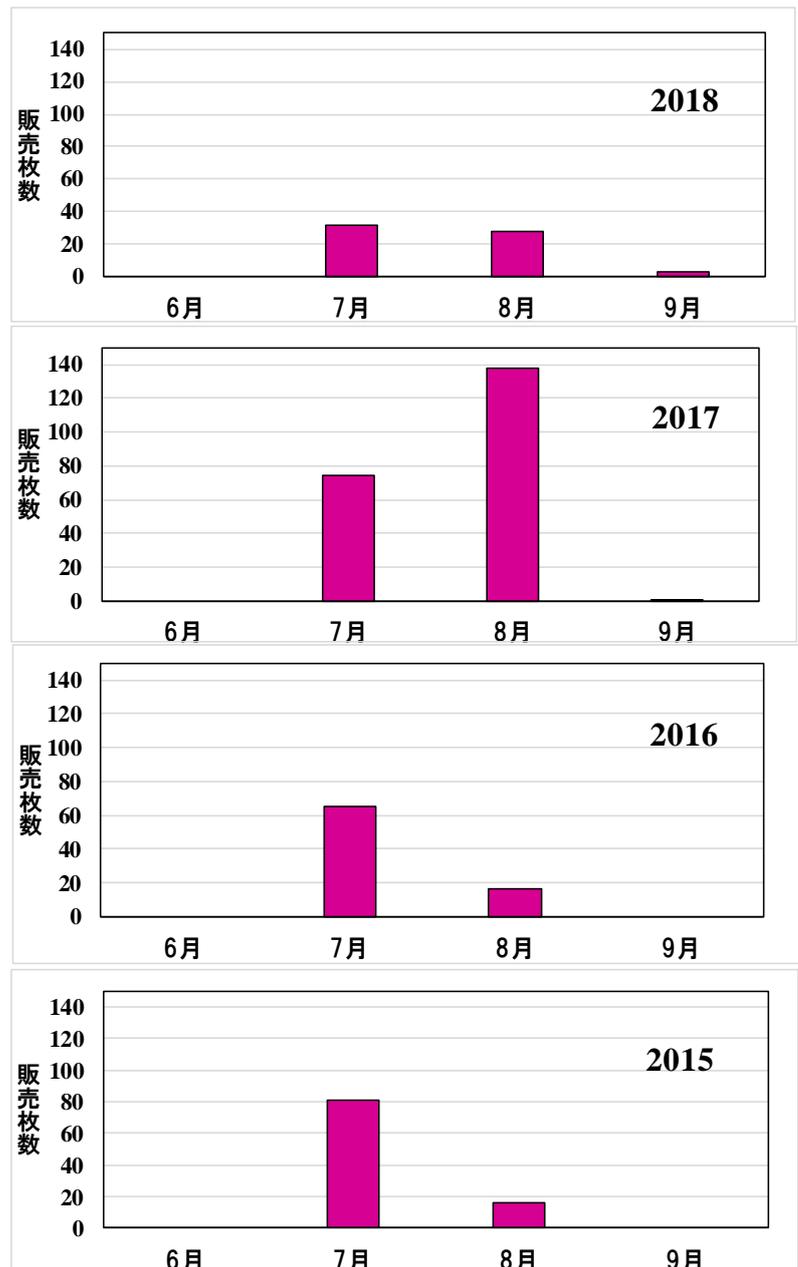


図5 朱太川のアユ月別遊漁券(1日券)販売状況  
漁獲が著しく多かった2017年は例年と傾向が異なる